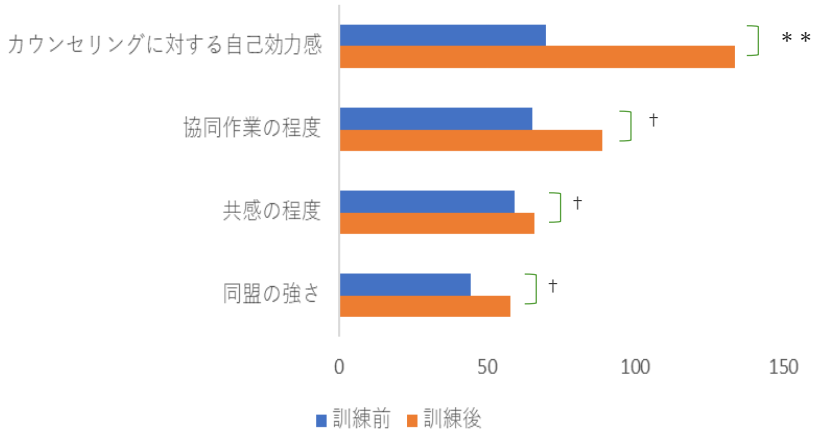
セラピスト教育訓練プログラムの目的と構成

回	訓練要素	訓練の内容
1	セッション中のTh.とCl.の相互作用の理解や気づきを促す（要素①）	講義形式によりセッション中のやりとりを三項随伴性の枠組みから捉える重要性について学ぶ。
2	セッション中のTh.とCl.の相互作用の理解や気づきを促す（要素①）	ロールプレイで自分の「とらわれ」に気づき，講義形式で「とらわれ」に対処する方法を学ぶ。ロールプレイで実践する。
3	治療関係スキルについての知識提供や理解を促す（要素②）	共感を示すために「言い換え」や「開かれた質問」の使い方について学び，ロールプレイやディスカッション，フィードバックを行う。
4	治療関係スキルについての知識提供や理解を促す（要素②）	協働作業を行うためのスキルを学び，ロールプレイを行う。ロールプレイについてディスカッションやフィードバックを行う。
5	上記要素①と②	アライアンスの質の向上，改善が困難な模擬クライエントに対して録画しながらロールプレイを実施し，録画の確認，ディスカッション，フィードバックを行う。

訓練プログラムの効果とその応用

訓練前後での得点の変化



Note. † <.10, ** < .01

効果サイズ

測定指標	Effect Size	基準
同盟の強さ	0.27	small
共感の程度	0.33	medium
協同作業の程度	0.17	negligible
セラピストの自己効力感	0.81	large
セラピストのスキル習得度	0.88	large

公認心理師養成課程への応用の提言

回	訓練要素	応用の仕方
1	セッション中のTh.とCl.の相互作用の理解や気づきを促す（要素①）	実習におけるセラピーの陪席の際や，自分がセラピストとしてカウンセリングを行う際に応用可能。セラピストの与える影響や与えられた影響について検討し，どのようなふるまいが適切であったかについて検討する。
2	セッション中のTh.とCl.の相互作用の理解や気づきを促す（要素①）	実習におけるセラピーの陪席の際や，自分がセラピストとしてカウンセリングを行う際に応用可能。セッション中に生じた「とらわれ」について検討する。
3	治療関係スキルについての知識提供や理解を促す（要素②）	「開かれた質問」や「言い換え」の基本的な用い方については学部や臨床実践の実習に出る前の大学院生を対象に講義形式やRPを用いて練習する。
4	治療関係スキルについての知識提供や理解を促す（要素②）	協同作業の3つのステップについての知識提供やロールプレイについては，学部や臨床実践の実習に出る前の大学院生を対象に実施する。

河村・入江・関口・坂野・本谷（印刷中）認知行動療法を行う初任者セラピストを対象とした同盟の質の向上を促す訓練プログラム開発のためのパイロットスタディ，認知行動療法研究